

蘇れ！懐かしの汽笛！



蒸気機関車と言えは煙突から立ち上る無い煙と「ホー」という汽笛の音です。汽笛(ホイッスル)は笛のような構造で、石炭の火力で水を沸騰させる事で高い空気圧の蒸気を作り、それをホイッスルに送ると「ホー」という音になるのです。C56のホイッスルは5つの笛を持った5室構造で5つの音の和音です。

この度、再度整備される事になった時、何とホイッスルだけは鳴らせないかと懸念していましたが、全国の鉄道ファンより圧搾空気を使う方法の伝授を受けました。しかし、静止保存中のC56108は当然又を使って高圧の蒸気を作る事ができません。そこで、工事現場などの空気式削岩機に空気を送る大型のコンプレッサーを使う事にしました。整備後のお披露目には、コンプレッサーより直接ホイッスルに圧搾空気を送りましたが、今ひとつ現役当時の迫力に欠ける音でした。蒸気機関車のホイッスルは一瞬にして大量の高圧空気が必要な事を京都の梅小路蒸気機関車館(四月二十九日京都鉄道博物館としてグランドオープン予定)より指導を受けて、保存車両の両側に付いているエアータンクに一旦圧搾空気を貯めてから、大量な圧搾空気をホイッスルに送る事によって現役当時のホイッスルの音に近づいて来ましたが、

一般公開では、誰でもが運転席(キヤブ)に乗り込んで機関士になった気分がホイッスルを思いっきり鳴らす事が出来ます。



動画サイトYoutubeから「foroti108」又は「汽笛を蘇らせる」でC56108のホイッスル動画をご覧いただけます。

ちどり

発行者
699-1332
島根県雲南市
木次町木次445-2
雲南市蒸気機関車
C56108保存会
tel 0854-42-2574

JR木次線利用促進が急務

先頃の三江線廃止の話題の最中、三月二十二日雲南市役所に於いて「これからのJR木次線を考える会」が開催された。当日は鉄道ライター 杉山淳一氏を迎えて、全国の観光列車などの紹介を受け、現在木次線で運行されている「トロック」列車おる「ちどり」の将来展開などについても話題となった。しかし、木次線は通勤通学や移動手段を持たない高齢者などの沿線住民の足であり、沿線住民が「どのような利用しやすくなるのか」「どうなれば利用出来るのか!」を議論し合い、乗客数が減少すればますます利用しにくくなる木次線の現状の打開を考えると「思わぬ」。



この会での木次線再考会

平成二十五年十一月に解体決定から奇跡的に蘇ったC56108も長年の盛大保存に耐えきれず、多くの箇所には大きな腐食がありました。先頭のフロントデッキ部分に腐食により大きな穴が空いておりましたが、昨年十一月に雲南市によって修復工事を受けました。しかしながら、各所にこのままでは腐食の拡大を余儀なくされる部分も多く、晴天での静止保存には限界がある事を痛感しました。



フロントデッキ部分修復
腐食限界!

木次線物語②

保存会 宇田川一徳



C56108

C56形式の蒸気機関車は愛称を「ホニー」と呼ばれ、全国の山岳路線や線路条件の悪いローカル線に配備され、急カーブや急勾配で悪戦苦闘した機関車です。

特に木次線は中国山脈を越える為の急勾配が多く、それを克服する為に出雲坂根では、JR西日本としての最高地点三井原野(標高七二七メートル)との標高差一六六メートルを克服する為に列車を一度バックさせてZ字形に路線を敷設し、



出雲坂根のスイッチバック全景(昭和30年代撮影)

大小九カ所のトンネルによって急勾配を克服する全国でも珍しい三段式のスイッチバックがあります。一九三七年(昭和十二年)のC56108が新製されて初めて配属された年に多くの難工事の未だに開通しています。JRとしての営業運転は九州の豊肥本線立野(たての)・熊本県と出雲坂根の二カ所だけに止まっています。

さて、今年には
線上鉄道(宍道)
木次・開業大
正五年十月)が
開業して百周年
に当たります。
トロック列車で
スイッチバック
を「音の思い出」
を胸に体験乗車
してみたいか
がてしようか!

一畑電車

貸し切り納涼列車運行

保存会では年に一度の研修会も開催しています。昨年は、お盆も過ぎた八月十八日(火)に一畑電車雲州平田電庫区の見学と、雲州平田へ出張大社前へ松江しんじ湖温泉(約五十九km)間の納涼貸し切り列車を運行しました。

当日は、車両運転司令室や電庫区ではつい最近まで日本の営業用電車としては最も古参の電車(チハニ50型)を運転し、一定の講習を受ければ、非営業区間で実際に運転出来る事を知りました。

また、錦織良成監督の映画「四十九歳で電車の運転士になった男の物語」のロケ現場や撮影エピソードも伺いました。納涼列車は、日京王電鉄の車両をイベント用に改造された車両で宍道湖の夕日を見ながら冷たいビールで特別な至福の時間を過ごしました。

この貸し切り納涼列車は、職場や町内会での行事としても貸し切れる事が出来る事が出来た。詳しくは、一畑電車株式会社(通称一畑電)営業課(C)へお問い合わせ下さい。



研修会での写真



イベント用車両 愛称「紙箱(たてぬい)」



宍道湖の夕日を見ながらの納涼列車

資料館のライトが蘇った!

C56108の後部テンダライトのガラスが破損しており見るも無惨な姿でしたが、一畑電車での研修中に一畑電車の資料館を拝見させて頂いたのですが、保存会の方々の目に止まったのが、一畑電車の旧車両に付いていたヘッドライトでした。鉄道ファンであれば「喉から手が出る」ほどの貴重な鉄道部品です。大ききも種よく何とか修繕してC56108に取り付けてあげたいと内心思いを込めておりましたが、何とか一畑電車より再利用していただけるお話をいただきました。早速持ち帰って内部の修繕や外部の再塗装で見違えるほど綺麗になり、C56108のライトを交換いたしました。大ききも種よく、資料館の電車の資料



一畑電車資料館のライトを修繕してC56108に取り付ける

保存会二の三年 事業報告

- 平成二十七年
 - 四月四日(土)・五日(日)桜まつり協賛公開展示 来場者約七百名
 - 四月十五日(水)役員会(幹事委員会について)
 - 四月二十一日(火)評議員会全額「ちびり」第二号発行
 - 四月三十日(木)役員会(点検・職旗等について)
 - 六月一日(日)拡大三夜会(研修会について)
 - 六月二十一日(日)環境整備
 - 八月十八日(火)一畑電車研修会
 - 大社町保存蒸気機関車視察
 - 貸し切り納涼列車運行
 - 九月七日(日)拡大三夜会
 - 十月二十五日(日)公開展示前の環境整備
 - きずきがつしよまつり協賛公開展示
 - 十二月三日(木)機雪時の車両保存のためシート掛けを行う・中間事業報告会



一畑電車での研修会の様子



年2回開催の公開展示



秋の公開展示にはミニSLも登場する

保存会の活動記録は、保存会ブログ及びフェイスブックからもご覧いただけます。
<http://ameblo.jp/c56108/>
https://www.facebook.com/seisun_hotel